

《薬局サーベイランスコメント》

『第 48 週の推定患者数は大幅に増加、12 月に入っても更に流行は拡大してくると予想される』

2017 年 12 月 5 日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬局サーベイランス (<http://prescription.orca.med.or.jp/kanjyasuikei/index.html>) によると、今シーズン（2017/2018 年シーズン）の 2017 年第 48 週（11 月 27～12 月 3 日）のインフルエンザの推定患者数は 68,447 であり、流行開始の基準値を超えた前週（第 47 週）の値（37,691）よりも大幅に増加しました（図 1）。休日明けの月曜日（12 月 4 日）の推定患者数は 21,821 と今シーズンの 1 日当りの最多数を大幅に更新しており、第 49 週以降もインフルエンザの患者数は更に増加していくものと予想されます。

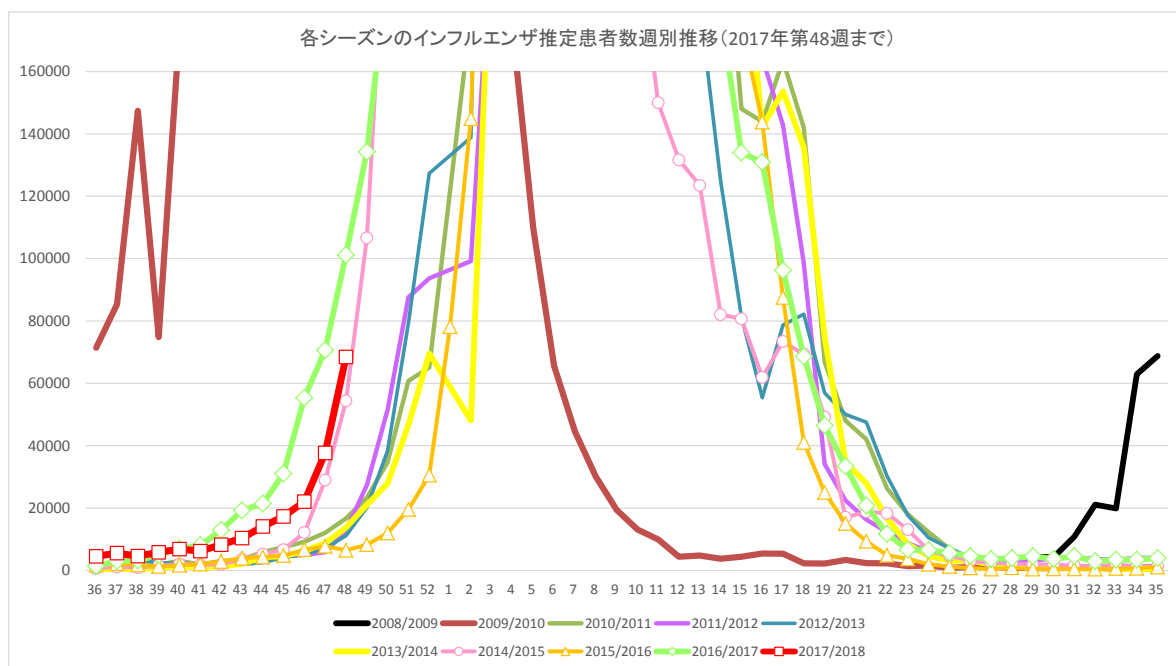


図 1. 過去 7 シーズンと今シーズン（2017/2018 年シーズン）の第 36～第 48 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2017 年第 48 週の推定患者数=68,447）

各都道府県別の第 48 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると福井県、石川県、北海道、大分県、宮崎県、熊本県、愛媛県、沖縄県、栃木県、佐賀県の順となっており、九州地域の流行が大きくなりつつあります。

2017 年第 36 週から第 48 週までの累積の推定患者数は 211,725 であり、年齢群別で

は5～9歳（21.5%）、0～4歳（12.6%）、10～14歳（12.5%）、40～49歳（12.4%）、30～39歳（11.9%）の順となっています（図2）。

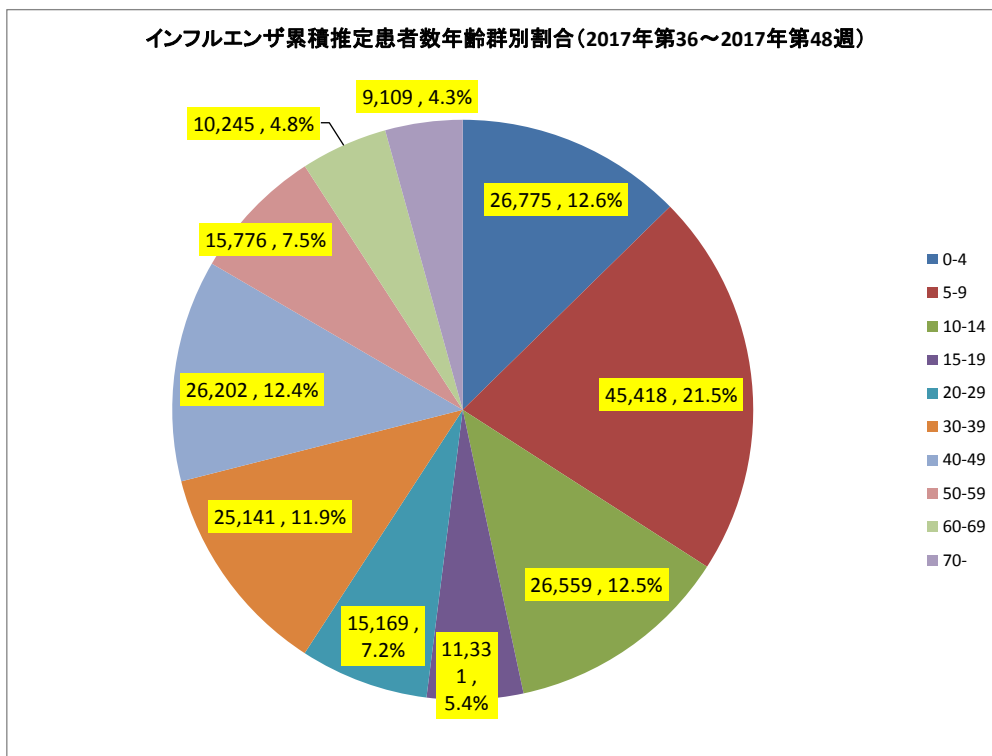


図2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2017年第36～2017年第48週、累積推定患者数= 211,725）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（286検体解析）は、A/H1pdm 45.1%、A/H3（A香港）亜型が32.9%、B型22.0%の順となっていて、AH1pdmの割合が増加しつつあります。

既にインフルエンザの流行は始まっていますが、12月に入っても更に患者数が増加し、流行は拡大してくることが予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生状況にはご注意ください。